

受講番号 19099 学校名 清水中学校 氏名 原 美智

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 105名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 ONE WORLD English Course 2(教育出版)

クラスの様子・特徴

昨年度からの持ち上りの学年で、授業の流れやペア活動の仕方などは定着している。しかし、人間関係の変化や、基礎力の定着の違いといった新たな課題も出てきた。また、定期テスト等で思うように点数の取れない生徒が多い。

問題の確定

「英語でどんな力をつけたいか」というアンケートから、「会話力」と「成績に関すること」が多いということが分かった。

予備調査

A 授業の観察

ベル席も守れ、準備物の忘れ物は少なく、授業の流れが分かっている生徒が多い。発音練習では声の出していない生徒もいるが、全体的には声を出すことに抵抗はない。課題と課題の合間に私語が多い。指示が一度で通らないことがある。

B 生徒による授業評価

「英語でどんな力をつけたいか」というアンケートでは、各クラスとも、「会話力」と「成績に関すること」の項目の割合が高い。活動の中で、好きなものは「歌」や「単語練習」で、ペアの相手によって、ペア練習が苦手な生徒もいる。

C 学力データ

CRTの結果は、全国平均を100とした場合、「聞くこと」94、「話すこと」84、「読むこと」92、「書くこと」82であった。

リサーチ・クエスト

授業に参加し、課題もこなせている状況で、どうすればテストの点数をアップさせ、自信をつけさせることができるか。

仮説・実践・検証

仮説1

単語テストやDictationを継続的に行えば、定期テストの得点もアップするだろう。

実践1

単語テストとDictationを週に1回程度のペースで行う。単語テストは1パートから5問を出題。教師が英単語を発音し、生徒はスペリングと意味を書く。1週間前には次回のテスト範囲を発表、連絡黒板にも書いておく。Dictationは1回に2文出題。初めのうちはグループで確認しあいながら、徐々に個人の活動へとつなげていく。後半はCDの音声でDictationへと移行していった。

検証1

単語テストとDictationは、週に1回程度のペースが定着し、生徒も頑張れば高得点が取れるため、意欲的に行えるようになった。前もってテスト範囲を予告し、また時間に余裕のあるときは、黒板にその日のテストの単語を書いておいた。結果としては、黒板に書いておいた日の方が、得点が高かった。Dictationは、教師の発音からCDの発音に移行した頃は、とまどいもあったようだが、徐々に慣れてきた。

仮説2

現在できているペアワーク活動を、継続・発展していけば、生徒同士の教え合いの場面が増え、分からない箇所を気軽に聞き合えるようになるだろう。

実践2

1年次の時は、QandA形式でペア活動を取り入れてきた。今年度は1年の教科書の重要表現を、弾丸インプット形式で行ったり、基本句型を使った会話式のペア活動、即興的なチャットと変化を持たせたペア活動を行った。ペアの組み方、時間制限を考え、マンネリ化しないようにしたが、ペアの相手によって、活動しづらい場面もあった。

検証2

ペア活動は、1年次から継続的に続けてきたので、そんなに抵抗はなくスムーズに行える。質問等も、以前は教師に聞く場面が多かったが、友達同士で助け合える場面が増えてきた。また、ペア学習だけではなく、班学習(6人)や小グループ(4人)の学習も取り入れたので、分からない所を聞いたり、教えたりする場面が増えた。生徒によっては、教師の説明よりも、友だちの説明の方がわかりやすいこともあるようだ。

仮説3

家庭学習を奨励し、個に応じた励ましやアドバイスをしていると、意欲的になり、点数につながるだろう。

実践3

家庭学習として、週3ページ以上のノート提出を行った。内容は自由で、主に単語練習や教科書本文の練習などが多い。毎週、提出曜日を決めて提出させたが、なかなか提出できず、声かけをしないといけない生徒もいる。定期テスト前などは、ページ数や内容も充実したものになるが、普段の内容は、まだまだ改善が必要な生徒が多い。ALTが来校した際には、コメントも書いてもらったので、生徒もそのコメントを楽しみにしている。

検証3

毎週の提出状況は、各クラス60~70%程度で、出せない理由としては、「忙しい」「忘れていた」ということであった。充実した内容で、定期的に家庭学習が確立している生徒は、テスト等の結果も安定している。ノートを使ってテスト勉強を頑張ったり、テストの点数が上がり勉強方法を確立した生徒もあり、他の生徒への刺激にもなった。

研究の成果

この学年で授業を行ってきて、授業はやりやすく、生徒も発音練習をがんばったり、ワークシートに取り組んだり課題はよくこなせている。しかし定期テスト等で思うように点数が取れず、定着が弱い。生徒のアンケートでも、点数をあげたいという希望が多いことがわかった。教師と生徒のニーズにあったこの点を研究のテーマとして取り組んできて、身近な目標を設定し達成させること、テストも普段の授業とリンクしたものが大事であると確認した。生徒側も小テスト等で結果が良いと、自信になり次への意欲にも繋がった。また、ペアやグループで学習することにより、分からないところを教えあえる雰囲気もでき、良い競争意識もできてきた。

今後の授業改善の課題

今後、学習内容が増えると、復習や反復練習がさらに必要になってくる。そのため、家庭学習の定着と充実を図り、アドバイスを行っていく。うまく機能するようになってきたペアやグループでの学習内容を工夫し、基礎力の定着が充分でない生徒の底上げを行っていきたい。マンネリ化しないように、小テストの内容や実施方法に変化を持たせ、継続的に基礎力や自信をつけさせる活動を続けていくことが今後の課題である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0880-82-1243